

フラッシュ



J A 青森

外ヶ浜町立蟹田小学校 田植え体験学習（6／3）

外ヶ浜町内の上小国集落協定が管理している水田で、蟹田小学校5年生12人が田植え体験学習に参加した。児童たちは、泥だらけになりながら田植え作業を行い、毎日のように食べるお米を作る大変さを学んだ。

体験学習を終えて、「将来の夢が変わった」「これからはもっと感謝してお米を食いたい」などの感想を述べ、農業に対する視点が変わった児童もいた。



J A つがるにしきた

ニンニク収穫本格化 品質良好、例年より早め（6／15）

当JA管内でニンニクの収穫が始まっている。管内では「白玉王」を栽培。真っ白な外観と肉厚な実、強い甘みが特徴だ。

つがる市の小寺優さんの圃場では、作業員15人が収穫機で掘り取った後、専用の鎌で根や茎を切り落とし、コンテナに詰めて乾燥機へ搬入した。

小寺さんは「今年は球の肥大が良く、品質の高いニンニクに仕上がった。収穫適期を逃さないよう作業を進めたい」と話した。

J A ぎょしょうつがる



探求学習でJA訪問 高校生が地域農業を学ぶ（6／19）

五所川原高校定時制の生徒3人は、「総合的な探求の時間」の一環で当JAを訪れ、6次産業化やスマート農業について学んだ。

営農指導を担当する米穀課の成田涼さんが、衛星画像データを活用した情報通信技術（ICT）システム「青天ナビ」を紹介し、水稻の生育状況や水管理に役立っていることを説明。生徒らは説明を聞きながら質問を重ね、地域農業への理解を深めた。



J A つがる弘前

農業塾を開催（5／21）

当JA総務課くらしの活動係は、管内の小学校や児童センターを対象に、食農教育の一環である「農業塾」を開催した。

弘前市立大和沢小学校で農業塾を開催し、全校児童31人が野菜の植え付け作業を体験した。

当JA東地区営農係の職員が講師を務め、サツマイモやエダマメ、ミニトマトなど、さまざまな野菜の定植方法や栽培管理のポイントを説明。

体験した児童は「丁寧に説明してくれてわかりやすかった。収穫が楽しみ」と笑顔を見せた。



J A 相馬村

「みんなだいすきはたけちゃん」で定植作業（5／27）

当JA女性部は、食育活動の一環として、相馬こども園の園児11人と野菜苗の定植を行った。園児たちは「みんなだいすきはたけちゃん」と名付けた畑で、同部員に教わりながらトマトやキュウリ、ピーマンなどを植え付け、品種の札を立てた。

また、今年は昨年栽培しなかったサツマイモの苗も植え、園児は「秋にはおいもパーティーをやりたい」と期待を膨らませた。

JAゆうき青森



ゆうき青森 一番草刈り取り本格化（6／12）

当JA管内で、飼料用牧草の収穫が本格化している。乳用雌子牛の育成や飼養管理などを行う当JA酪農振興センターでは、職員が大型刈り取り機2台で、次々と牧草を刈り取りした。刈り取った牧草は数日間乾燥させ、専用の機械で円柱状に成形し、ラッピングされる。

同センターの職員は「春先の干ばつで生育が遅れ、例年より遅いスタートとなったが、一定の収量は確保できている」と話した。

JA津軽みらい



クリーン大作戦 組合員・地域住民のために（6／6）

当JAは本店や各支店、グリーンセンターなどで「クリーン大作戦」を実施した。組合員や地域住民が気持ちよくJAを利用できるよう、職員がごみ拾いや草刈り・洗車など大規模な清掃活動に取組んだ。

クリーン大作戦は昨年に引き続き2回目の実施。当JAは今後も、組合員や地域住民に寄り添った活動を続けていく。

JA十和田おいらせ



ダイコン首都圏初出荷式（5／27）

当JAはおいらせ町の下田野菜センターでダイコンの首都圏初出荷式を開いた。

ダイコン10トンを積んだトラックがJA全農青果センター（株）神奈川センターに向けて出発。今後は東北・関東・関西などの青果市場にもエリアを広げ、管内全体でピーク時、日量100トンを出荷する。JAでは冷蔵運送による鮮度保持に努め、シーズン取扱高11億4,730万円超えを目指す。

出荷式には農家やJA役職員らが出席。関係者らがテープカットで安全運搬を願った。

JAおいらせ



三沢市と六戸町で

地区別総代懇談会を開催（6／2、5）

当JAは2日に本店で、5日に六戸支店で、総代を対象とした「地区別総代懇談会」を開催した。

同懇談会は、JAおいらせの自己改革の取組みの一環で、組合員の意見や要望を聞く場を設け、今後の事業に反映させることを目的としている。

中屋敷一夫組合長は、「総代から頂いたご意見は今後の事業運営に反映させたい。また、組合員の声を聞く場をさらに作っていきたい」と話した。

「ジュノハート」50万円

初せりで生産者に元気を与えて（6／20）

県オリジナル品種のサクランボ「ジュノハート」の初せりが、八戸市中央卸売市場で行われた。上位等級品「青森ハートビート」は1箱50万円の最高値を付けた。「ジュノハート」は、国産品種のなかでも最大級の粒の大きさと、糖度は20度以上の甘味の強いサクランボだ。

当JAの若林政秀組合長は、「今年のジュノハートは最高の品質で色づきや輝きが宝石箱に入ったルビーのようだ。今回の初せりで、生産者にぜひ元気を与えてほしい」と市場関係者に呼びかけた。

JA八戸



Moving
Forward

各連合会の取組みを紹介します

JA共済連青森

「組合員・利用者との関係性強化・仲間づくり」 に向けた地域貢献活動の取組みについて

令和8年度は、JA共済3か年計画（令和7～9年度）の中間年度として、「組合員・利用者との関係性強化・仲間づくり」をさらに深化させる取組みを展開します。

地域貢献活動を「活動」で終わらせるのではなく、“JAとの継続的な関係づくり”や“事業への好循環”へつなげることを重点方針として掲げています。

取組事項1

新規接点を創出する活動の展開

JAとの接点が希薄な地域住民・准組合員層へのアプローチを強化し、イベントやSNS、マスメディア等を活用した情報発信に取組みます。

- ・「つなぐ action! プロジェクト」の取組み強化
JA共済アンバサダー（地域の応援隊）によるイベント参加・情報発信など
- ・各種イベントアンケートを通じた情報収集・関係づくりの強化

取組事項2

JAとの継続的な関係性の構築

JAのイベント参加者情報を活用し、地域の特性に応じたお役立ち情報などの発信に取組みます。あわせて、女性部・青年部・生産部会等の組合員組織との連携強化を図り、地域住民との継続的な関係づくりをめざします。

（情報発信例）

- ・子育て世代：親子イベント・食育情報
- ・高齢者：健康増進・介護予防情報
- ・農業者：農作業安全・直売所情報

取組事項3

JA・JA共済事業につながる ニーズ想起活動の実施

これまでの地域貢献活動で実施していた「体験」「未然防止」に加え、「保障の必要性の想起」までを一連のものとした地域貢献活動を展開します。

活動を通じて、組合員・利用者の安心につながる情報提供の強化に取組みます。

（主な展開例）

- ・防災教室：建物・家財保障への理解
- ・農作業事故体験VR：農業保障への理解
- ・健康教室：医療・介護保障への理解

取組事項4

農業・地域基盤の強化

農業者向けコンテンツの拡充等の取組みを通じて、農業者が安心して営農に専念できる環境づくりに取組みます。

取組事項5

効果的な広報活動と活動効果の見える化

地域貢献活動を継続的に発信し、「JA共済の地域貢献活動」という統一的なイメージ定着をめざします。



農業のために 地域のために 明日のために

JA共済の地域貢献活動



全国から豪雪災害見舞金が贈呈される

JAグループ山形、JAグループ宮城から豪雪災害見舞金

今冬の記録的豪雪で災害に見舞われた青森県の農家組合員の復旧、営農継続に役立ててもらおうと、JAグループ山形の折原敬一会長、JAグループ宮城の佐野和夫会長らが5月27日、東京都内でJAグループ青森の乙部輝雄会長に見舞金を贈呈した。

両県の会長は、「2年続けての災害に心を痛めている。同じ東北の仲間として応援する」と激励。乙部会長は、「昨年の災害から懸命に立ち直ろうとする矢先、2年連続の豪雪は生産現場にとって計り知れない打撃となった。見舞金については、各JAを通じて被災された農家組合員の営農意欲回復につながるよう、大切にに使わせていただく」と謝意を述べた。

青森県によると、今冬の雪による農業被害額は202億8,000万円に上る。



▲乙部会長（中央）に見舞金を贈呈する折原会長（右）と佐野会長（左）

JA岩手県中央会から豪雪災害見舞金

JA岩手県中央会は6月2日、東京都内で今冬の記録的豪雪で甚大な災害に見舞われた青森県の農家組合員の農業復旧に役立ててもらおうと、伊藤清孝会長がJA青森中央会の乙部輝雄会長に見舞金を贈呈した。

伊藤会長は、「2年続けての災害に、農家の心情を思うと心が痛む。農家組合員が一日でも早く前を見て進まれることを、チーム東北の仲間として祈念している」と激励。目録を受け取った乙部会長は、「2年連続でこれほどの豪雪に見舞われたことに、生産現場は身も心も疲れ果てている。

東北の仲間からの激励を現場に伝えるとともに、見舞金については、各JAを通じて被災された農家組合員の営農継続のために大切にに使わせていただく」と謝意を述べた。



▲乙部会長（右）に見舞金を手渡した伊藤会長（左）

JA兵庫中央会から豪雪災害見舞金

JA兵庫中央会は6月18日、東京都内で今冬の記録的豪雪により甚大な被害に見舞われた青森県の農家組合員の農業復旧に役立ててもらおうと、福本博之会長がJA青森中央会の乙部輝雄会長に見舞金を贈呈した。

福本会長は、「ニュースで青森県の厳しい状況を拝見し、胸を痛めていた。雪解け後の活動にも大きな影響が出たと思う。復旧に役立ててほしい」と激励。目録を受け取った乙部会長は、「2年連続で200億円を超える豪雪災害に見舞われたことは、生産現場にとって計り知れない打撃である。見舞金については、各JAを通じて被災された農家組合員の営農継続のために大切にに使わせていただく」と謝意を述べた。



▲乙部会長（右）に見舞金を手渡した福本会長（左）

県ＪＡ女性大会・夏期研修会 組織活動 体験発表はＪＡ相馬村の田澤さん

県ＪＡ女性組織協議会は6月12日、県農協会館で「令和8年度青森県ＪＡ女性大会・夏期研修会」を開催した。県内各ＪＡ女性組織や事務局から約100人が参加。同協議会の松橋久美子会長は「組織活動体験発表は自組織の実績を振り返ること、成長につながる。また、研修は大いに学び、楽しんでもらいたい」とあいさつした。

組織活動体験発表お披露目会では、ＪＡ相馬村女性部の田澤真由美さんが「私たち女性部が次世代に継げる道を～子どもたちへの食育と地域を支える奉仕の心～」と題し発表。田澤さんは「次の世代も女性部に入りたいと思えるよう、活力ある組織をつくる」と決意を語った。田澤さんは8月に行われる東北・北海道地区ＪＡ女性組織リーダー研修会で、県代表として発表する。

研修会では、体験型食農教育事業の実施に向けた「みそ玉づくり」を学んだ後、一般社団法人Ｊミルクの西沢彩乃主任を講師に招き「6月は牛乳月間！牛乳と乳和食を学ぼう」をテーマに講演。牛乳と和食を組み合わせ、食塩やだしを減らした調理法を学んだほか、4種類の牛乳を飲み比べるワークショップが行われた。



▲組織活動体験発表お披露目会で発表する田澤さん

「青の煌めきあおもり国スポ・障スポ」 企業協賛にかかる感謝状贈呈式

ＪＡグループ青森は今年度、青森県で開催する第80回国民スポーツ大会および全国障害者スポーツ大会「青の煌めきあおもり国スポ・障スポ」に協賛し、オフィシャルスポンサーとなっている。

今回の協賛は、スポーツの振興だけでなく、地域活性化や次世代育成に大きく寄与する大会である旨に賛同し決定したものである。

県は6月15日、協賛した企業や団体に対し県庁で感謝状贈呈式を行った。ＪＡグループ青森からは、ＪＡ青森中央会の乙部輝雄会長が出席した。

式では宮下宗一郎知事から感謝状と同大会の公

式マスコットキャラクター「アップリート君」のぬいぐるみが贈呈。宮下知事は「多額の協賛をいただき感謝している。協賛を励みに、良い大会にしたい」と意気込み、乙部会長は「大会運営や選手の皆様を支える一助となれば幸い」と話した。

ＪＡグループ青森は今後も地域活性化や次世代育成に貢献していく。



▲賞状を受け取る乙部会長（左）と宮下知事（右）

第72回 通常総会を開催

ＪＡ青森中央会は6月22日、県農協会館で第72回通常総会を開催した。令和7年度の事業報告、決算財務諸表および財産目録について審議され、原案どおり可決された。令和8年度は第30回ＪＡ青森県大会で決議された3カ年計画の2年目として、重点実施事項を中心に事業を進める。

冒頭、乙部輝雄会長は「農家組合員が将来展望をもって営農継続できるよう、また『持続可能な本県農業の未来を切り拓く』その強い信念を持ち、ＪＡグループ青森が一丸となって歩みを進めていく」とあいさつした。

また、総会では、農業協同組合功労表彰を実施。表彰者は次の通り。（令和8年6月22日現在）

▷経営功労表彰＝山中満春（ＪＡつがるにしきた組合長）、畠山一男（ＪＡ十和田おいらせ組合長）



▲表彰された山中組合長（左）、畠山組合長（右）と乙部会長（中央）

営農指導員を目指すＪＡ職員がよりよい営農活動を学ぶ

ＪＡグループ青森は、「よりよい営農活動」の一環として事業間連携を重視した総合事業提案を進めている。これは、県域の連合会間でも実践しており、対象を同じくするＪＡ職員研修会等を共催する連携の動きも活発化している。

ＪＡ青森中央会とＪＡ全農あおもりは６月２３日、青森県観光物産館アスパムで「営農指導員資格認証指定研修会【営農企画】およびスキルアップ研修会」を共催して開催し、県内４ＪＡの若手営農指導担当職員ら８人が参加した。

本研修会は、営農指導員を目指すＪＡ職員に「よりよい営農活動」を意識したうえで技術や知識を学んでもらおうと、県中央会とＪＡ全農あおもりが共催して２年目となる。

指定研修会では、弘前大学農学生命科学部国際園芸農学科の成田拓未教授が、農産物マーケティングの基礎理論とセグメントマーケティングの実際について説明。受講者はあまり聞き慣れていない専門用語を交えた内容に時折考え込みながらも真剣に聞いていた。

スキルアップ研修会では、サージミヤワキ株式会社営業課の滝沢勲氏が鳥獣害対策について話し、昨今、青森県でも出没している熊や猪などの被害に直面している受講者は真剣に聞き入っていた。また、ＪＡ全農あおもりからは鳥獣害対策資料の説明もあった。

今回も２つの研修会をつなぐ形で「よりよい営農活動」に取り組む目的や方向性についての説明を中央会農業支援課が行い、ＧＡＰ手法を活用した営農指導の進め方や「環境調和型農業」と「よりよい営農活動」の一体的展開、みどりの食料システム戦略との関係性について話した。

同研修会を令和８年度は５回開催し、今回で４回目となり、次回が最終回。認証試験の合格と合わせて５回全ての受講修了者が、ＪＡ営農指導員として青森県農業の発展を支援する新たな力となることが期待される。



▲真剣に聞き入る受講者

受講した職員は「理論的な部分は正直難解だが、自分の力にしていきたい」と話した。



行事（７／１０～８／１０）

７月

- 10日 総務・管理担当部課長会議（県農協会館、WEB）
- 10日 営農部門管理・監督職研修会（県農協会館）
- 14日 常勤監事会議（ホテル青森）
- 14～15日 次世代リーダー育成研修会ユニット１（県農協会館）
- 15日 県参協定例会（県農協会館）
- 15日 県女性協第３回定例理事会（アップルパレス青森）
- 15日 県青年部・女性部役員と県連役員との意見交換会（アップルパレス青森）
- 18日 ジョシマルツアー（山の楽校、ＪＡ八戸南部支店）
- 21日 しゃかしゃかおむすび＆みそ玉教室（大間町認定こども園うみの子保育園）
- 22日 津軽地区ＪＡ協議会定例協議会・研修会（弘前パークホテル）
- 22～27日 認証初級準備研修会（県農協会館、WEB）
- 27日 第２回きらきらサークル研修会＆くらしの活動研修会（県農協会館）
- 28日 人事考課者研修会（県農協会館）
- 29日 臨時総会、臨時理事会（県農協会館）

８月

- 1日 第３回きらきらサークル研修会＆くらしの活動研修会（県農協会館）
- 3日 組織再編検討会議 専門部会【管理・津軽】（ＪＡごしょつがる）
- 4日 組織再編検討会議 専門部会【管理・県南】（ＪＡ十和田おいらせ）
- 5日 県参協定例会（県農協会館）
- 7日 定例理事会（県農協会館）

令和8年豪雪災害資金の取扱いを開始

JAバンク青森では2026年6月1日以降、順次、令和8年豪雪災害で被災された農業者向けに以下の災害緊急資金の取扱いを開始する。

○令和8年豪雪災害対策資金

▶貸付限度額

1,000万円以内（1万円単位）

※既往借入金に基金協会保証の災害資金の残高が含まれている場合、1,000万円以内から当該残高を差し引いた額を貸付上限額とする。

▶資金使途

令和8年1月および2月の豪雪災害による農業経営の一時的な悪化に対応するために必要な、農業経営の維持や再開を目的とした費用等（ただし、負債整理資金および既往借入の借り換えは除く）。

▶対象者

令和8年1月および2月の豪雪災害について、災害救助法が適用された市町村において被災した農業者のうち、市町村が発行する罹災証明書を有する者、又は罹災内容をJAが証明する者

▶金利

各JA所定の金利

▶融資期間

10年以内（据置期間2年以内）

▶貸付取扱期間

2027年2月26日までの新規貸付分が対象

▶担保・保証

青森県農業信用基金協会の保証の利用可能。

※担保・保証人が必要となる場合がある。

▶利子補給

最大で当初5年以内の借入利息について、農林中央金庫が最大1.0%の利子補給を実施。

▶保証料助成

最大で当初5年以内の保証料について、農林中央金庫が最大0.5%の保証料助成を実施。

※お借入に際して、JAが出資金をお預かりする場合あり。

※利子補給・保証料助成の対象となるには、所定の条件あり。詳しくは最寄りのJA窓口までお問い合わせいただきたい。

※審査の結果によっては、ご要望に添えない場合あり。

※取扱開始日はJAによって異なる。

JAバンク青森は、今後も県下のJAグループと協力し、令和8年豪雪災害で被災された方を支援する取組みを行っていく。

農機メーカーイベントへの参加

JAバンク青森では、2026年6月18日・19日に開催された農機メーカーの合同展示会へ参加した。

本イベントではJAつがるにしきた・JAでしよつがるが合同でブースを出展し、2日間で延べ約550人にチラシを配布することでPRを行い、農業者ニーズの把握に努めた。

引き続き、各種イベントへの参加を通じ、組合員に寄り添った情報発信とサービスの充実を目指していく。



▲イベントの様子

行事（7/10～8/10）

農林中央金庫

7月

- 14日 JAバンク青森運営協議会専門委員会（県農協会館）
- 15日 融資トラブル対応法務研修（*）
- 28日 JA信用事業における反社会的勢力対応研修（*）

農協電算センター

8月

- 7日 定時取締役会（県農協会館）

（*）はウェブ会議

令和8年度青森県青年部協議会第2回役員会における事業計画の説明

JA全農あおもりは、6月1日、青森市の県農協会館で、令和8年度青森県青年部協議会第2回役員会において、事業計画について説明を行った。

役員会には県内JAの青年部役員らが出席し、今後の農業振興や組織活動の方向性について説明を受けた。全農あおもりからは、最重要施策である「組織力発揮による生産振興の強化や農家経営の安定化」、「県産農畜産物の販売力強化と系統共販の拡大」、「購買事業の競争力強化と系統利用率の向上」にもとづく各種取り組みを示し、その説明の中では、農業を取り巻く環境の変化に対応するための具体的方策として、担い手・新規就農者への支援やスマート農業の導入促進、県産農畜産物のブランド力強化、りんご輸出の維持・拡大などとした。

これを受け、青年部協議会の今大介委員長は「全農あおもりの取り組みを知る良い機会となった。特に食料安全保障の重要性について、生産現場の声と数字をいち早く汲み上げている立場であり、高い危機感を持って取り組んでいると感じた。また、りんご事業の輸出戦略の内容も把握できた。生産者側に求められている生産能力を再認識する必要があると感じた」と感想を述べた。



▲説明を受ける協議会役員

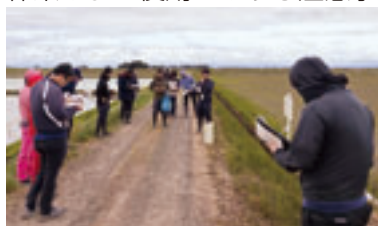
乾田直播栽培現地研修会の開催

JA全農あおもりは6月5日、つがる市で「乾田直播栽培現地研修会」を開催し、生産者およびJA営農指導員・県関係機関約20名が参加した。

県内で直播栽培の作付面積が拡大していることに伴い、技術力向上と栽培の留意点についての情報共有を目的に開催したもの。

講師を務めた、青森県西北農林水産事務所からは、つがる市内で乾田直播栽培を実施している4地区の生育状況について、全農あおもりからは、4月に同市で開催された乾田直播栽培播種実演会の内容や除草剤の体系および使用における注意事項について説明したほか、コスト低減に向けた共同購入コンバインと省力化に向けた自動給水機「アクアポート」を紹介した。

研修会では、



▲圃場の様子を観察しながら研修を受ける参加者ら

圃場特性を理解したうえで、乾田直播栽培と湛水直播栽培を使い分けることの重要性や、省力化が望める一方で、専用機械の導入が必要になるなど、生産現場の実態に即した活発な意見交換が行われた。

全農あおもりでは、今後も研修会等を通じて、直播栽培に関わる技術提供および資材提案を行っていく。

やさい・花き販売懇談会

JA全農あおもりは6月16日、青森市で、令和8年度「やさい・花き販売懇談会」を開いた。全国の取引会社や県内関係者ら213人が出席し、事業経過や取扱対策について確認した。

令和8年度共販目標額を300億円とし、内訳はやさい295億円、花き5億円とした。品目別では、ながいも78億円、にんにく48億円、トマト23億円などに設定し、必達に向けて実績を積み上げる。

重点実施策としては、ながいも・にんにく・ごぼうの系統共販率の向上や気候変動に対応した生産技術の検証、各取引先との連携による有利販売の実践、ながいもの輸出拡大、効率的な輸送体制の確立などを掲げた。

全農あおもりの乙部輝雄運営委員会会長は「近年は生産・流通コストが上昇している中、鳥獣被害の頻発、気候変動による収量減や品質の低下、中東情勢による生産資材の高騰、さらに、消費者の節約志向の強まりや、遠隔地である本県からの物流体制整備など喫緊の課題があり、それらへの対応が急務となっている。

特に、コストを反映した適正な価格形成に向けて、各取引先の協力を得ながら引き続き理解醸成に取り組む。」と述べた。

また、系統共販拡大に尽力した取引会社6社（青果4社・花き1社・加工1社）を表彰した。



▲頑張ろう三唱をする参加者ら

行事（7/10～8/10）

7月

17日

JA—LPガス保安講習会
（県農協会館）

21日

毒物劇物取扱者試験講習会
（県農協会館）

8月

7日

運営委員会（県農協会館）

J-SMILE研修会「長期」編の開催

JA共済連青森は6月9日、県農協会館にて新任スマイルサポーターを対象としたJ-SMILE研修会「長期」編を開催した。

本研修会は、長期共済推進に向けた窓口での情報収集、LAへの情報連携や提案プロセスを学ぶとともに、お客さま対応スキルの習得を目的としている。

研修会はロールプレイングを通じて、お客さま対応や情報連携のポイントを学び、今後取組みたい行動を宣言するなど、参加者は意欲的に研修を受講していた。



▲真剣に説明を聞く参加者

LAステップアップ研修（推進マインドデザインコース）の開催

JA共済連青森は6月16日、県農協会館にて2年目LAを対象としたLAステップアップ研修「推進マインドデザインコース」を開催した。

本研修会は、共済事業の意義・やりがいを再確認し、お客様にとって付加価値のある推進活動へつなげていくための心構えを醸成することを目的としている。

研修会では、参加者が推進活動に対する考え方を共有し、講師からの問いかけにも積極的に応じるなど、意欲的に研修を受講していた。



▲自身の取組姿勢を振り返っている参加者

青森県JA共済防犯対策協議会の開催

JA共済連青森は6月18日、ウェディングプラザアラスカにて、令和8年度防犯対策協議会総会を開催した。

この協議会は、JA共済連青森と青森県警察本部、青森県暴力追放県民センターが連携し、反社会的勢力の排除や不正請求の防止を図ることを目的としている。

開会にあたり、協議会会長である葛西本部長が挨拶し、「JA共済は、反社会的勢力との取引を一切遮断するとともに、その排除を強力に進める社会的責務を負っている」「契約者に安心と満足をお届けられるよう、しっかり取組んでいきたい」と述べ決意を新たにした。

続いて防犯対策にかかる案件協議と承認を踏まえ、最後に出席者全員で暴力追放を決議し、総会を閉会した。



▲開会にあたり挨拶する葛西本部長

行事（7/10～8/10）

7月

- 10日 支店管理者交流集会（ホテル青森）
- 15日 JA共済ヘルスアップ講座（プラザマリユウ五所川原）
- 15日 JA自然災害損害調査員養成研修会（県農協会館）
- 23～24日 JA審査員養成研修会（生命コース）（県農協会館）
- 24日 JA共済きずなの青い森プロジェクト（平内町）
- 28日 LA交流集会（フレアー・ジュスウィート）

8月

- 5～7日 JA審査員養成研修会（建物コース）（県農協会館）
- 7日 運営委員会（県農協会館）



あおり通信

連絡先

農林水産省東北農政局

青森県拠点地方参事官室

TEL: 017-775-2151

— 農林水産省からJA関係者へ情報発信 —

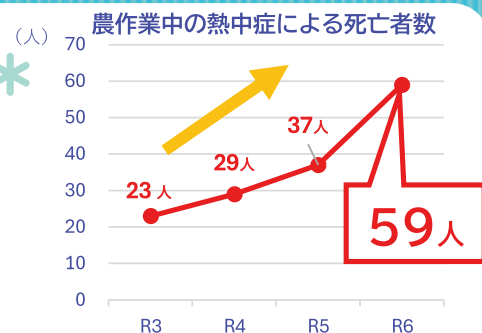
農作業中の熱中症を予防しましょう!!

夏に向けて、農作業中に熱中症になる人が増えてきます。

熱中症は正しい知識を身につけることで、適切に予防することが可能です。

* 農作業中の熱中症が急増 *

- 近年、農作業中の熱中症による死亡者は急増しています。
- このうち、約85%が7～8月に発生しています。



* 予防のポイント *

暑さを避ける

高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所で作業



こまめな休憩と水分補給

喉の渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給



単独作業は避ける

複数名で作業を行う、時間を決めて連絡をとり合う



熱中症対策アイテムの活用

帽子や吸湿速乾性の衣服の着用、空調服や送風機の活用



詳しくはこちら↓



そのほか、日々の体調管理など熱中症に負けない体づくりをしておきましょう!

農林水産省



実践 担い手支援

今年も熱中症対策&農作業安全に注意を！ ～労災保険加入も考えましょう～

◆はじめに

ここ数年まさに「酷暑」が続いています。今年はエルニーニョ現象の発生が確認され、本来は冷夏となるはずが猛暑となった一昨年と状況が似ていると言われています。5月下旬には欧州各地が大変な熱波に襲われており、日本もまた酷暑となることが予想されます。

さて、農業労働環境をめぐる昨今の情勢は、令和6年に事業者が労働者雇用時に安全教育を行うことが義務化され、また7年6月には熱中症対策の義務化、9年1月1日以降製造の乗用型トラクター等のシートベルト着用義務化など、農作業安全にかかわるさまざまなことに義務化の波が押し寄せています。

もちろんこれは、農業分野での作業中事故等による死亡者数が他の全産業と比較して多いこと、そしてそれが増加傾向であることが背景にあります。

J Aグループでは毎年、農作業安全等の注意喚起の運動を行っていますが、基幹的農業従事者の平均年齢が69.2歳（6年度）と他産業に比べて非常に高いことや、65歳以上の従事者が全体の約7割（2年度）を占めることなど複合的な要因から、残念ながら農作業事故の増加・高止まり傾向が続いています。

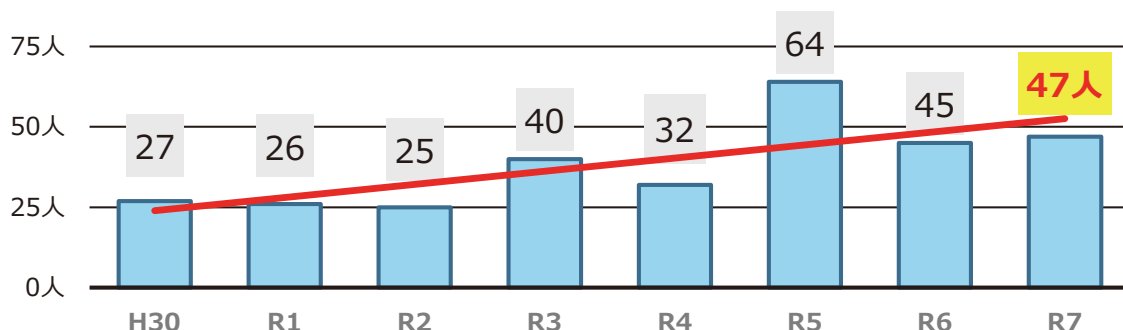
◆青森県の農作業事故の傾向と熱中症

本県農作業事故の過去10年の傾向をみると、65歳以上の高齢者の割合が高く、また死亡事故につながるケースが多くなっています。

乗用トラクターによる農作業事故が全体の15.6%を占めていることが特徴で、またスピードブレーヤーや高所作業台車、乗用草刈機、脚立といった果樹作業で使用する機械・器具による事故件数が際立っています。

さらに、田畑・森林等での農林水産関係の作業における熱中症の救急搬送人数は増加傾向にあり、7年度の搬送者は47人と6年度を超える水準で高止まり傾向となっています（参照：青森県 熱中症による救急搬送人数）。

青森県 熱中症による救急搬送人数（農林水産関係）



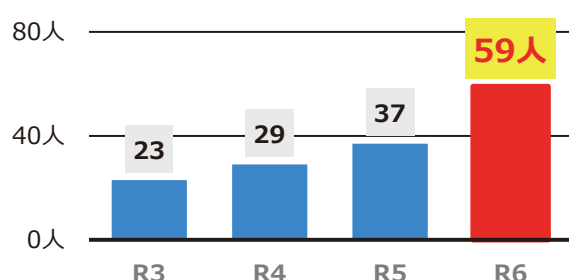
青森県では春の農繁期を迎えるに当たり、農業機械等による事故を防止するため「春の農作業安全運動」を展開しています（6／1～8／31）。全国では1年を通じた取組みですが、本県では厳しい冬が終わり農作業が再開する春と、米・リンゴ等の収穫作業などが集中する秋の二期に分けて、メリハリをつけた取組みを継続して行っています（その間に「熱中症予防運動」も設定）。

「これくらいの暑さは平気」「自分は大丈夫」と過信せず、農作業安全のポイントを意識し「みんなで声かけ！安全確認」を心がけ、安全第一で農作業事故をなくすため、いま一度まわりの環境やその日の暑さ・気温、自分の体調等をしっかり確認してから農作業に取りかかっていたいただきたいと思います。

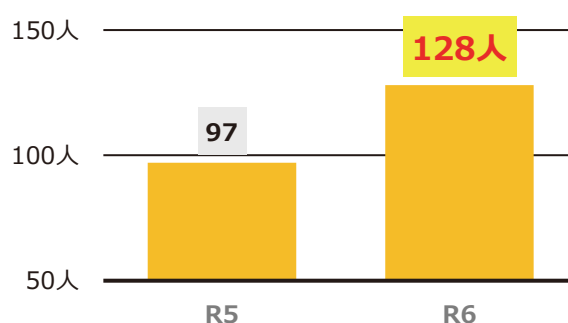
参考までに全国の6年度データと比較すると、農作業中の熱中症による死亡者数は熱中症以外の死亡者数の半数に迫っています。熱中症警戒アラートの発表回数も年々増加しています。

今年はここ数年で一番の酷暑になるという予想もありますので、家族や仲間、職員同士で事故が起きないように注意・確認し合って笑顔で出来秋を迎えていただきたいと思います。

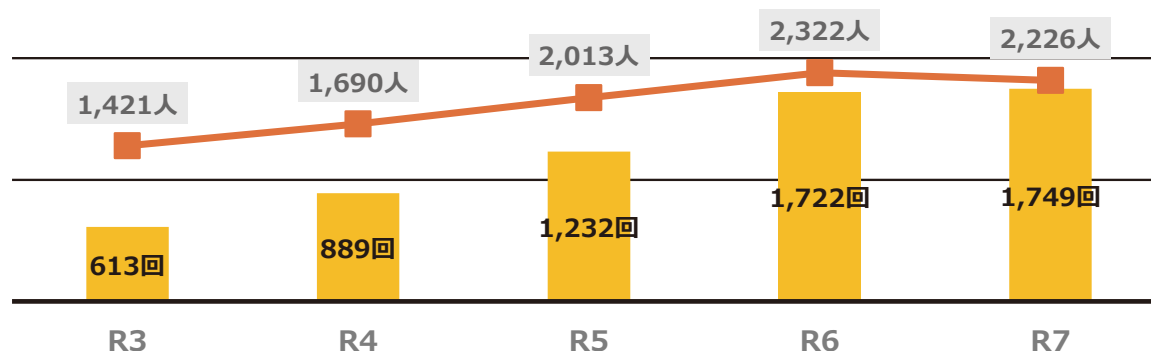
全国：夏季の農作業中の熱中症等による死亡者数



全国：5～9月の熱中症以外の死亡者数



全国：直近5年の仕事場における救急搬送人数と熱中症警戒アラート発表回数



◆労災保険の加入も考えましょう

本県に限らず全国的な傾向ですが、農家の高齢化や農作業事故・死亡者数の増加、高止まりの状況を考えると、「労災保険」への加入も取るべき対策の一つといえます。

労災保険については、他産業では労働者を雇用する事業主には労災保険加入が義務づけられる一方、農業者は5人以上の労働者雇用がなければ任意加入となっていました。

しかし、国は労働者保護等の観点から、一人でも労働者を雇用する農業者には労災保険加入を強制適用する方針を7年度末に打ち出し、今年4月には閣議決定して法案を国会に提出しました。国会で可決されれば、公布から5年以内に施行されることになります（13年度からの予想）。そうすると、新たに労働者を雇用する農業者は、他産業の事業者と同様に労災保険への加入が義務化されることになります。

◆さいごに

労災保険加入の義務化（強制適用）については、確かに農業経営における経費の増加という面が気になるところではあります。しかし、農作業事故や死亡者の増加・高止まり傾向が続く現在、いつ自分も事故に遭わないともかぎりません。そのときの農業経営の継続や家族等への補償などを考えると、国会での議論の行方などを見つつも、そろそろ加入について真剣に考えるべき時が来たといえるのかもしれない。

（中央会 農業対策部）

経営の窓口

◆物流効率化法の完全施行と適正取引の推進について ～持続可能な農産物輸送の実現に向けて～

1. はじめに

令和8年4月1日より「流通業務の総合化及び効率化の促進に関する法律（物効法）」が完全施行された。これにより、年間取扱貨物量が9万トン以上の事業者には「特定事業者」としての法的義務が課されることとなった。大宗のJAは該当しないものの、同法は規模を問わずすべての荷主事業者に対し、物流効率化への取り組みを「努力義務」として課している。今回は、同法に関連したトラック運送事業者との取引にかかる留意事項について説明したい。

2. 法環境の整備と適正取引の推進

物流をめぐる法環境の整備に伴い、運送事業者との適正な取引関係の構築がこれまで以上に強く求められている。国土交通省の「トラック運送業における適正取引推進ガイドライン」や「中小受託取引適正化法（取適法）」では、優越的な地位を利用した不当な「買いたたき」や、契約にない「不当な経済上の利益の提供（無償の棚入れ、仕分け、過度な附帯業務の要求など）」を厳しく制限しており、これらは行政による指導・勧告の対象となる。さらに、労務費やエネルギーコストの上昇分を価格交渉の場で協議せず据え置くことも問題視されている。「これまでそうしてきたから」という安易な慣行の継続は、コンプライアンス違反に直結するリスクを孕んでいる。

3. 荷主として協力すべき具体的取組

ガイドラインや法令に基づき、集出荷場や選果場、購買資材の受け入れにおいて、JAが発荷主・着荷主として実践すべき具体的項目は以下の通りである。これらは単なる努力目標ではなく、健全なパートナーシップを維持するために不可欠な実務対応である。

- 価格決定方法の適正化：
一方的な原価低減要請や、燃料価格等の変動を考慮しない価格決定を禁止する。運賃・料金は、運送事業者との十分な協議を踏まえて決定しなければならない。
- コスト負担の適正化：
仕分け・検品・陳列等の附帯業務や荷待ち待機など、運送以外の業務に係る費用は、運賃とは別に契約上で明確化し、適切に支払う。
- 契約の相手方・方法の適正化：
運行・整備管理者の選任や社会保険加入など、事業者の法令遵守状況を事前に確認する。また、運送契約締結時は書面を交付し、附帯業務料や高速道路料金等の支払いルールを明記する。
- 長時間労働の削減：
ドライバーの負担軽減に向け、着荷主側における荷待ち時間の解消に協力する。面談等を通じて課題を具体的に把握し、発着荷主と運送事業者が一体となって議論できる協議の機会を設ける。

4. おわりに

昨今の中東情勢の緊迫化に伴う燃料価格の深刻な高騰や、労働時間規制の強化（いわゆる2024年問題）により、運送事業者の経営環境は限界に達しつつある。

信頼できる運送事業者がいなければ、組合員が丹精込めて育てた農産物を全国へ届けることはできない。事業者からの燃料サーチャージの導入要望や、コスト上昇に伴う運賃改定交渉に対しては、一方的に据え置くことなく、相手方の原価根拠等に耳を傾け、平等かつ誠実に対応する必要がある。

産地を守り、日本の食を支え続けるためにも、運送事業者を持続可能な物流を共に創る「対等なパートナー」として位置づけ、物流効率化の取り組みを進めていただきたい。

（中央会 経営対策部）

「食農教育」しゃかしゃかおむすび&みそ玉作り教室の実施

6月9日、青森藤こども園にて「しゃかしゃかおむすび&みそ玉作り教室」を開催し、年長の園児24名と保護者28名が参加した。この活動は、今年度よりJA女性組織協議会の事業として始まったイベントであり、未就学児を対象として体験型食農教育を実施するというものだ。

今回、青森農協女性部は初めて青森藤こども園を訪問し、お米とごはんについての紙芝居の読み聞かせを行い、農業の大変さや大事さに触れながら「作ること・食べること」を園児へ教えた後、紙コップを振って簡単に作れる「しゃかしゃかおむすび」と、火を使わずに作れるみそ汁の元となる「みそ玉」を一緒に作って試食した。

園児らは自分で作ったおにぎりとみそ汁を美味しそうに頬張り、女性部員とハイタッチをする子が多くいた。中にはおにぎりをおかわりして作る子もいて、笑顔いっぱい非常に楽しそうにしていた。女性部員らは「子どもたちから沢山元気もらった」「初めての訪問だったが笑顔で楽しんでくれてよかった」など、手ごたえを感じている様子だった。

青森農協女性部では、今後も消費拡大や子どもの健やかな成長のために食農教育活動に取り組んでいく。



簡単手作り しゃかしゃかおむすび



お湯で溶かすだけ みそ玉作り



J A 青森女性部員と写真撮影



農林中央金庫 青森支店
JAリテール企画班
やました もも か
山下 桃花 さん

輝き

●プロフィール

2025年4月から勤務 弘前市出身 24歳

— 働くきっかけは？ —

農業を営む実家の畑作業を幼少期から手伝ってきた経験から、農業者の苦労を身近に感じてまいりました。進学する中で、将来は農業に関わる仕事に就き、漠然ではありますが農業に貢献したいと考えようになりました。

また、旅行が趣味で大学時代には各地を訪れる中で、地域の食を支える農業者の存在の大きさを実感しました。こうした経験から、農作業の負担軽減や担い手の増加に寄与できる仕事に携わりたいという思いが一層強まり就職いたしました。

— 業務内容を教えてください。 —

主に年金契約の増加、JAバンクの貯金残高および給振口座の増加のための推進を行っております。月次では、各種商品の実績集計を行い各JAの状況把握をしております。集計の結果、実績が増加または減少したJAには要因のヒアリングをとおりして、リカバリー策の検討と実践を行うことが主な業務です。

— 働いた感想は？ —

商品の推進には、年金制度やJAで取扱う貯金商品など様々な前提知識が必要であることを痛感いたしました。JAへ訪問しJA職員の皆様のお話を直接伺うなかで、実務的な視点や商品知識が徐々に身いてまいりましたが、まだまだ勉強不足であるため、常に学ぶ姿勢を忘れないよう業務に取り組んでおります。

— 仕事をする上で、日頃心がけていることは？ —

期日管理の徹底と現場目線を持つことを心がけております。JAへ訪問した際には、現場では何が起っていて何が課題であるのかを吸収できるよう意識しております。

— 特技・趣味は？ —

趣味は旅行で、旅行先で綺麗な景色を見て美味しいご飯を食べることが生きがいです。

— あなたが自慢できることは？ —

ホラー映画を一人で観られることです！

— 将来の夢は？ —

業務では、今より商品の知識や推進方法に関する知識をつけ、適格な推進方法によって数字を伸ばすことが目標です。プライベートでは、友人と運動を始めることが目標です…。

JA人の動き

○JAつがるにしきた（令和8年6月26日付）

代表理事組合長	成 田 春 光（新）
代表理事専務	石 岡 克 域（新）
代表理事常務（信用担当）	小 野 信 吾（再）
代表理事常務	金 澤 榮（再）
代表監事	白 川 仁（再）
常勤監事	松 澤 秀 治（新）

○JAゆうき青森（令和8年6月26日付）

代表理事組合長	天 間 一 博（再）
代表理事専務（営農経済担当兼務）	村 山 淳 一（再）
代表理事常務（酪農畜産担当）	野田頭 和 義（再）
常務理事（金融共済担当）	織 笠 守（新）
代表監事	坪 賢 次（再）
常勤監事	成 田 高（再）

○JA十和田おいらせ（令和8年6月26日付）

代表理事組合長	斗 澤 康 広（新）
代表理事専務	竹ヶ原 直 大（新）
常務理事（営農経済担当）	小 川 真 輝（新）
常務理事（信用担当）	馬 場 聡 美（再）
代表監事	小笠原 秋 彦（新）
常勤監事	高 村 司（再）

○JAおいらせ（令和8年6月25日付）

代表理事組合長	中屋敷 一 夫（再）
代表理事専務	今出川 弘（再）
常務理事（信用担当）	小比類巻 正 志（再）
代表監事	五日市 茂（新）
常勤監事	岩 谷 謙 司（新）

新風

J A
つがる弘前

父と大玉トマト栽培
収益性高い経営追求

弘前市に住む福田拓郎さんは、パーソナルトレーナーから転身し、就農して2年目となる。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、人との接触が制限されるようになった頃から、地元で家族が行っている農業の魅力と可能性を再確認し、就農を決意した。

就農1年目は、J Aつがる弘前主催の農業後継者研修で営農を学びながら、父親が行う大玉トマト栽培を手伝い、栽培技術の向上に励んだ。長年の経験に基づいた父親の栽培管理と、効率性を求める自身の栽培管理が異なり、ぶつかり合うことも多かった。

就農2年目となる今年は、ピーマンの作付けに挑戦し、作付本数は1,000本。同J A営農係職員からの定植や管理の個別指導、セミナーに参加するなど技術と知識の習得に励んでいる。

福田さんの目標は、休みがない、キツイ、儲からない、という農業のイメージを変えること。「昔からこうだから」という固定観念にとらわれず、機械の導入などで効率化を図り、収益性を高める経営を目指す。「将来は法人化して地元学生を雇用するなど、新規就農者を増やしていけたら」と意欲を見せる。



ピーマンの芽かき作業を行う福田さん

後編 記集

あと1ヶ月もしないうちに夏本番「青森ねぶた祭り」の時期ということで、胸が高鳴ってきましたね。

さて、6月下旬に津軽国定公園の一部である龍飛崎までドライブに行ってきました。当日は、若干曇りでしたが、津軽海峡を隔てて北海道や下北半島をなんとか望むことができました。

また、2頭の龍が鎮座する迫力満点の龍見橋を渡ったのですが、当日は風が強く、遮るものがないので高所恐怖症も相まって非常に怖かったです。

また、龍飛崎には、石川さゆりさんの名曲「津軽海峡・冬景色」の歌碑や車が通れない日本唯一の「階段国道」として知られる国道339号がありますので、立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

P.S クマの出没にはくれぐれもご注意ください。

Have a nice July (克)



▲龍飛岬



▲龍見橋



▲津軽海峡（北海道方面）

ホームページアドレス

- J A青森中央会 <https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>
イベントの様子、歳時記、産直・J A情報などをご覧いただけます。
- J Aバンク青森 <https://aomori.jabank.org>
商品・サービスのご案内のほか、マネーシミュレーションや全国のJ Aバンクへのリンク等をご覧いただけます。
- J A全農あおもり <https://www.zennoh.or.jp/am/>
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- J A共済連青森 <https://www.jakyosai-aomori.jp>
J A共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。

営農にますます役立つアプリに

「日本農業新聞ニュースアプリ」がリニューアル! 新機能を追加し、操作性も向上しました。
好みに合わせてカスタマイズでき、情報収集がより便利になります。

新機能
1

病害虫診断

スマートフォンで撮った写真から、農作物の病気や害虫をAIで判定することができます。
対応品目は、トマト、ブドウ、イチゴ、キュウリ、タマネギ、ジャガイモ、ナス、桃、ピーマン、菊、大豆、カボチャの12品目です。



新機能
2

気象情報

1週間の天気予報に加え、1キロ四方単位の詳細な気温、降水量、日照時間のデータ(過去7日間+今後7日間)を見ることができます。また、栽培品目の積算温度も計算できます。



新機能
3

Myカテゴリ

関心のある用語や、栽培品目、市町村名、JA名などを登録すると自分だけのカテゴリを作成できます。カテゴリには自動で記事が分類され、読みたい記事を手軽に探せます。



※本サービスは人工知能(AI)技術および外部データベース等を活用した参考情報の提供であり、診断の正確性・有効性について当社は一切の責任を負いかねます。ご自身の責任において判断し、ご利用ください。

アプリダウンロードはこちら

右記QRコードを読み込み、日本農業新聞公式ウェブサイトからアプリダウンロードにお進みいただけます。



※アプリのダウンロードには「Apple ID」または「Googleアカウント」が必要となります。 ※App StoreはApple Inc.のサービスマークです。 ※Google PlayはGoogle LLCの登録商標です。

アプリの利用について

- アプリ内で全ての記事・機能を利用するには、電子版有料会員登録(月額2,403円)が必要です。
- 電子版有料会員の方は、アプリを利用する前にブラウザ版でログインして会員登録を受けてください。会員登録がないと、アプリ内の一部の機能が利用できません。
- ※過去一度でもブラウザ版でログインしたことがある方は認証済みです。

紹介動画はこちら



お問い合わせ

日本農業新聞 電子版事務局
dkanri@agrinfo.co.jp



家の光

IE no HIKARI

「食と農」「暮らし」「協同」「家族」を柱に
「人生100年時代」の元気づくりを応援していきます!



読者に寄り添い
より身近で活用しやすく

お申し込みはお近くのJAへ

誌名	定価(税込) ※毎号統一価格
家の光	900円

JAグループ 家の光協会 〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町11 TEL 03-3266-9039 <https://www.ienohikari.net/>